

牛久：学校周辺に見る自然

第24号 ひたち野うしく小, 牛久二小, カッパの小径

2018年6月12日発行

< モンシロチョウの一生 >

3年生でモンシロチョウの育ち方を学習しました。いくつかの写真をまじえて確認してみましょう。



①卵：高さ1mmくらい。白からうすい黄色、オレンジ色へとかわっていく。



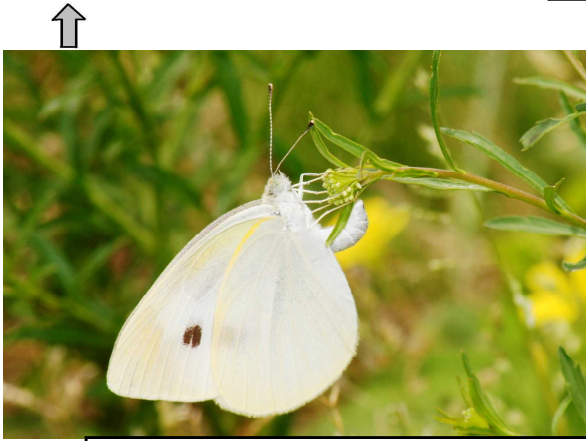
②ふ化幼虫：体長2mmくらい。からを食べる。



③1回皮を脱いだ幼虫：体長5mmくらい。脱皮するたび、どんどん大きくなる。



④4回皮を脱いだ幼虫：体長3cmくらい。体の横の丸いものは、気門(きもん)という息をするための穴。あしは8対に見えるが、本物のあしは3対。



⑩産卵：腹部を丸め、マメグンバイナズナ(アブラナ科)に産卵した(1つ産卵済み)。



※幼虫に食べられ、穴だらけになったキャベツ。体が大きくなると食べる量もぐんと増える。



⑤さなぎ：じっとしているように見えるが、中では幼虫の体をどろどろにし、はねやしよつかく触角など成虫の体を作り直している。



⑨交尾：次代の子孫となる卵をつくる。



⑦自由に飛びまわるチョウ(成虫)：いろいろな花のみつを吸う。幼虫とのちがいは？口、あし、目に注目！幼虫になくて、成虫になってできたのは？



⑧求愛(きゅうあい)：おすがめすを追いかける。



⑥羽化したてのチョウ(成虫)とさなぎのカラ：背中と首のところが割れて羽化する。血管が血圧で押されて伸びだし、くしゃくしゃのはねを広げる。血管は固まってはねの脈となる。

◎ 卵(たまご)→幼虫(ようちゅう)→さなぎ→成虫(せいちゅう)を、春から秋にかけて5, 6世代くり返す。【理科支援員：宮内】